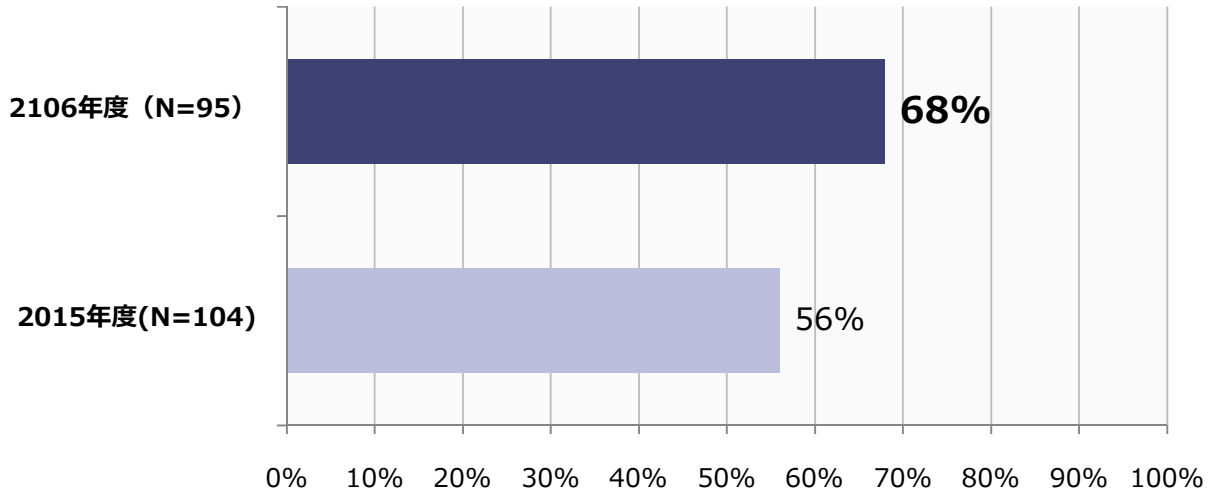


Door-to-balloon time (DTBT) 60分以内の達成率

Door-to-balloon time (DTBT) とは、急性心筋梗塞の患者さんが病院に到着してから再灌流療法（閉塞した冠動脈の血流を再開させる治療）が開始されるまでの時間のことをいいます。循環器内科医の努力だけで、DTBTを短くすることは不可能です。救急患者さんを受け入れる救急外来、緊急心臓カテーテル検査を行う放射線部などの部署が緊密に連携をとる協力体制がないと、DTBTの短縮は到底達成できません。



当院値の定義・算出方法

分子： 基準時間(60分)内の実施患者数合計
分母： 急性心筋梗塞（急性冠症候群）の患者数 (N)

$$\frac{\text{分子}}{\text{分母}} \times 100 (\%)$$

※グラフ中のN数は分母の値を示しています。

解説(コメント)

「Door to Balloon Time 基準時間（90分）内実施率」の項で述べたように、ST上昇型急性心筋梗塞（STEMI）では、病院到着から冠血流が再開するまでの時間、すなわち Door-to-balloon time (DTBT) を90分以内にするのが超急性期治療のスタンダードです。さらに、DTBT90分以内実施率が高いことは、救急体制の総合力が高いことを示唆し、医師ばかりでなく看護師・技師など全ての職種が高いモチベーションをもって救急医療に携わっていることを示唆していると考えられます。

当院では、「DTBT 90分以内」のさらに上に行く、「Door to Balloon Time (DTBT) 60分以内実施率」をQ Iとして取り上げました。

改善策について

2016年度も、DTBT 90分以内達成率は92%と高いレベルを維持することができましたが、DTBT 60分以内実施率も68%とまずまずの成績でした。

病院到着からカテ室搬入までは一部の例外を除いておよそ30分で、各職種の協力により極めて迅速に対応できています。「一部の例外」を少しでも減らすため、救急医やメディカルスタッフとのコミュニケーションを密にして循環器内科医にアプローチしやすい環境作りに努力しました。またカテ室では、循環器内科のシニアスタッフが、冠血流回復までの時間短縮を意識して的確なリーダーシップを執ることを徹底しました。

文責：循環器内科顧問
岡部 眞典